

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	ホームを自治会の一員として見て下さるようお願いをして迎えられている。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	災害時を想定しての避難訓練に、近隣の方達にも協力者として通報させていただいている。役割として、ホームの門の開放、避難の協力、見守り。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	今年度は地区の会計を引き受け、地域にも貢献している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者、職員は地区の会合に関わり、認知症ケアの啓発に努めている。	○	事業所の理事長のも協力していただき、地域に貢献していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	個々が自己評価してから職員全員で集り、評価をまとめた。評価をすることで自分自身を見直し、改善すべきことがみえてきた。外部評価の結果を理事長にも報告して、改善に向け努力をしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて事業所サービスを報告し、評価や助言、要望をいただいている。また、取り組んでいる行事を実際にみてもらい、評価や意見をもらうようにしている。	○	地域の消防団長に運営推進委員をお願いして、防災の面で協力してもらい、ホームの現状を報告して意見をもらうようにしている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進委員である保健福祉課長とやすらぎ館職員とホームが台風などの災害時に連携して、連絡を密にして入居者の安全確保に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	「成年後見制度」及び「地域福祉権利擁護事業」に係るリーフレットを玄関に掲示している。管理者が研修に参加している。現在、対応が必要と思われる入居者がいないため全職員が理解していない。そのために必要時に支援できる体制が万全とはいえない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会は実施していない。しかし、ミーティングで認知症の症状や対応の仕方などを勉強して対応しきれない時に向けた言葉を反省して、他の職員に助言を求めるなどスキルアップに努めている。	○	入居者をより身近に感じ、何気なくかけている地域独特の言葉などを見直していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に時間をいただき説明している。特に利用料金、事業所でできること、できないことについては説明し、医療面については説明し同意を得るようにしている。また、ホーム生活のなかで起こりうるリスクについてもお話をさせていただいている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察し、ミーティングで話し合い職員全員がその思いを察する努力をするようにしている。	○ 入居者と職員の会合を定期的に設けていきたい。(意見や行きたい所を知る)
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月一回担当職員が家族に便りを送付し、現在の報告をしている。健康状態は随時電話にて報告している、アルバムを各自作成し、家族がいつでも見られるように各居室に置いている。	○ 担当職員からの便りを「みなさんからのラブレター」言われ喜んでもらっている家族や毎回返事をくださる家族もおられる。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族にアンケートを郵送し第三者に返送していただき、運営推進会議で話し合った。その内容は運営推進会議録として玄関に掲示している。家族の訪問時に意見などをたずねてみたり、運営推進会議にはご家族全員に案内を出し、参加を促し、意見を言ってもらうように努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議を月一回行い、意見をきくようにしている。また日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、問いかけたり、聞き出したりしている。	○ 月一回の定例会議に時間をたっぷり使っている。何でもいえる場として更に充実を図りたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	起床、就寝は本人の希望や状態で行っているが職員に無理がかからない時間が維持できている。また受診などその都度必要に応じて職員の配置を考えている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員は入居者にきちんと紹介している。新しい職員に慣れ親しんでもらうため、引継ぎ面ががんばってもらい、違和感のないケアができるようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	なるべく多くの職員が事業所外で開催される研修に受講できるように計画をたてている。定例会議時に研修報告をしている。	○	職員が資格取得を目指している。日頃の業務に配慮しながらできるだけ多くの職員が受講しスキルアップに努めている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所と月一回勉強会を開催して、サービスの向上を目指している	○	職員の多数が参加できる関連の事業所との勉強会を定期的に持てるように取り組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士の人間関係について把握している。	○	地域のいろいろなスポーツ大会などに参加することができるように勤務の調整をしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けた支援を行っている。理事長自信もケアする立場で入居者に接している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の相談があった時、家族から入居の理由や心身の状態、生活状態を把握し入居できる状態となった時に本人と面談して心身の状態などの確認や本人の思いをしり、職員にも相談して受け入れの体制を作っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族または本人と家族に事業所を見学してもらい、できるだけ安心して入居できるように希望を聞くなどして努力をし、入居後は面会を歓迎している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時や入居時に家族や本人のおもいを見極め、家族に協力を求めたり、関連事業所と提携してサービスの利用の調整を行うなどしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を希望されているご家族やご本人に現況などを電話にてお知らせしている。また、すぐの入居となった場合には、ご家族の面会を歓迎してご本人が少しでも安心して生活してもらえるようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	節目の行事などをお聞きして、実際に取り組んでみたりしている。また、入居者から「あんたどんがもぞなぎいからよー」を声を掛けられて食器の片付けを手伝ってもらっている。本人の思いや不安などを受け止め支えあう場面が観られている。入居者どうしても話し相手になってもらうなどみんなで支えあっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が「帰りたい」と希望する時などは、自宅に連れて行き、家族に会えるようにして、家族も帰宅を歓迎してくれている。家族が遠く、高齢でもあるがゆえ、なかなか会いに来れず、心配しているので職員は家族に成り代わり、家族のような気持ちで支援していくことをご家族とご本人に伝えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	「自宅に帰りたい」「お盆や正月には連れて帰りたい」とお互いの思いがあるため、自宅で過ごせる機能の維持に努め支援している。ご家族の来訪時には、近況をお話しすると同時にご本人のよいところを積極的にお話している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	故郷訪問を行った。知り合いの方を見つけたときには、ゆっくりとお話をさせていただいている。地域のお祭りなどに参加することで、知り合いに会える機会を確保している。	○	昔から利用している美容院に家族とでかけ、散髪をしてもらっている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	余暇の時間を気の合う入居者同士がソファでゆったりと会話をしている。作業で役割分担をして、円滑な関係が保たれている。行動障害が観られる入居者が信頼している入居者の関わりで落ち着いたりする。職員に感謝の気持ちがある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	母体が病院であり、退去された方のほとんどが入院加療のためである。しばらくは面会を行っていたが病院で亡くなられている。住居地の特別養護老人ホームへ移られた方は遠方であり、なかなか訪問できないので施設の方から現況を聞いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情などからその真意を推し測ったり、ゆったりとした時間がもてているなかで確認することもある。意思疎通が困難な方には家族に元気なころはどういう暮らしだったかなどの情報を得て本人を支えている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から生活歴、どういう風に生活していたかを聞き、入居されてからも折に触れご本人から自然に若い頃や元気な頃の生活習慣を聞いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを把握している。何もできないのではなく、働きかけて協力していただいたりしている。他の人の話を聞くことができることも本人が持っている力として評価している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人から要望を聞き、家族には面会時に希望を聞きケアプランに反映させている。定例会議時に全職員に本人・家族の思いや要望を伝えカンファレンスを行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況、効果などを職員が記録する介護記録で把握している。入院などにより、状態変化が生じた場合は本人や家族の要望に応じて話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの中の訴えや行動、職員がかけた言葉、行為、相手の反応、感じたことなどを記録している。夜間の様子などもいつでも全ての職員が確認できるようにしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の通院はホームが行っており、状況によっては付き添っていただく時もある。母体が病院であり、早期の受診や入院した場合は早期の退院を主治医と話し合っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員の方に運営推進委員をお願いし、餅つき大会では東郷町内の多くの民生委員の方がボランティアとして手伝いに来られました。また地区の消防団長も運営推進委員であり、防災訓練に参加していただき、台風時には、見回りに来ていただき、協力の声をかけていただいています。	○	地域の民生委員に第三者委員をお願いし、ホームの運営に関わっていただいています。地元の消防団にはホームの建物を理解していただいています。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス事業所の支援は受けていませんが、本人の希望等により、理容業の方にきていただいて散髪を行ってもらう時もある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に東郷町地域自治センターの保険福祉課長と職員に参加してもらい協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。通院はホームがサービスで行っているが不可能な場合には、家族に相談して家族に行っていただく時もある。このことは、入居時に説明している。定期以外に受診するときは家族に連絡して受診結果を電話にて報告している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	理事長が精神科医のため、すぐに相談が可能であり適切な指示や助言をもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置している。また、受診している病院の看護師も入居者のことをよく理解しており、常に入居者の健康管理や状態変化に応じた支援が行える体制である。看護職員がいない時間帯は介護職員の記録をもとに確実な連携を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には情報提供書を医療機関に提供し、ホームの職員が交代で見舞う機会を多く作っている。管理者は医師との情報交換に努め退院の見通しについて話し合い、ホームの受け入れ体制をつくり、早期退院につなげている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	急変時など医療についての同意書があり、状態の変化がある時はご家族の思いや希望をお聞きする。日頃のご本人とのかかわりの中で本人の思いを理解する。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「終末期・緩和ケアの看護と利用者・家族への援助」の研修会に職員を受講させて今後に備えて徐々に準備をしているところである。	○	看取り介護の研修に受講して職員のスキルアップにつなげていく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住所地の特養ホームに移られた方がおります。移られた時、グループホームでの生活全般にかかる情報を提供しました。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレという言葉に不快を表し応じられない入居者に対して、トイレ方向からさりげなく名前を呼び、トイレ近くにきたところで「せっかくだから排泄を済ませておきましょう」等さりげない言葉かけを行っている。着替えをしなければならないような介護の際もご本人が誇りを失わないような対応ができています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意思表示が困難な方には、簡単な返事やうなづきで答えられるような働きかけを行っている。職員が先回りして答えを誘導するようなことはなく、あくまでも本人の意思を聞き出す努力をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら支援を行っているが重度者が多いため、離床や入浴など業務に合わせてもらうときも多い。しかし入居者の状態や思いに配慮して外出など柔軟に対応している。	
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	重度の方も起床したら、洗面台の鏡の前で整容介助を行っている。職員は、日頃より「きれいじゃ」「似合っている」などのことばをかけている。美容院でパーマをかける方やいきつけの美容院でカットされる方もおられる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえ、食後の片付けなど職員と入居者が協働しておこなっている。心身上の都合でそれが出来ない方は味見で食事作りに参加し「おいしいよ」「砂糖が足りんね」などと意見を言う。昼食は入居者と職員がテーブルを囲んで会話をしながら楽しく食事ができるようにしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつを楽しみにしておられます。糖尿の方には主治医の指示があるため、ほかの方との差を感じさせない配慮をして提供し満足していただいている。ご自分で管理できる方は自室に自分で管理しています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意の訴えない方も日中はオムツは使用せず、下着に尿とりパッドで時間を見計らってトイレ誘導を行うことにより排尿があり、排便も誘引している。ご本人の行動で判断しトイレに誘導しているケースがある。	○	安易にオムツは使用せず、トイレで排泄できるように支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は水曜日以外毎日行っており、13:30～4:00に実施している。脱衣場はカーテンを使用してプライバシーが守られている。本人の希望で入らない日もある。お湯の量にも好みがあり、お湯が浴槽からあふれるようにしてほしいと希望される方には入浴前からお湯をたっぷりとし出ししている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼食後の休息は本人の習慣を優先している。ベッドの角度や寝具なども本人の好みがあり、安心した眠りができるように支援している。その方のリズムがあり、薬を使ったりして強制的に眠らせるのではなく、その人なりのリズムを大事にしている。眠らないときは温かいお茶などを飲みながらお話をして時間をすごし頃合を見てベッドに誘導するなどしながら睡眠		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割があり、生き生きとされている。「あなたたちが大変だから、、、」と職員を助けてくれるので職員は常に感謝の言葉をかけている。団子作りや千切り大根作りなど、節目のならわしを大事にして力を発揮してもらっている。外出が気晴らしになる方には少しの時間を作って外出を支援している。	○	外出を好まない方に対しては、少しの時間でも、外の空気や季節社会の流れを感じていただく機会を作っていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額を手元にもち、外出時にお菓子を購入される方が2名おられる。年一回大型店に皆で出かけ、職員と一緒に衣類を見立て、レジでご自分でお支払いできることを支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換を図り、外出の多いかたもおられる。また、自宅に行くことを希望され時々ドライブのように出かけたりする。「行きたくない」とめったに出かけない方もおられる。日向市にあるGHに従姉妹がおり、月に一回お連れしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	職員の配置で個人の希望がなかなかかなえられない。故郷訪問は行った。	○	故郷訪問をもっとすすめていきたい。利用者と職員の会合の日を設け入居者の希望にそった計画を立てていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方はいつでも自由に電話が掛けられるように支援している。家族からホームにきた手紙を本人にも読んでもらうなどして家族を感じてもらっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間などは定めておらず、ご家族の都合の良い時間にいつでも訪ねて来ていただけるように配慮している。職員は笑顔で来訪者を歓迎し、お茶などを提供してゆっくりと過ごしてもらるようにしている。		
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束があってはならないと全職員が認識している。身体拘束は行われていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設の建物には鍵はしておらず自由に出入りができる。しかし、施設の門は国道に面しており、交通量も多いために一歩でると重大事故のリスクが高い。そのために門は施錠させてもらっています。ご家族も一番心配している点です。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員はさりげなく入居者の状況を把握するように努め、その場を離れる時は他の職員に引き継いでから離れるようにしている。夜間は時間ごとに巡視を行い、L字型の中心を居場所としてすぐに対応できるようにしている。気になる方への巡視は細めに行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、刃物は決められて場所に保管している。裁縫道具をもっていらっしゃる方が1名居られるが常に使用しているので制限はせず、取り扱いに注意するように声をかけ、本人も自覚している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	関連施設で勉強会を持ち、代表者が参加して定例会議のときに報告している。また誤嚥を起こしやすい入居者については食事形態や食事姿勢、飲み込みの確認、状態観察で対応し、転倒のリスクが高い方への見守りなど夜間帯の時に和室を利用するなどして対応している。	○	事故が発生した場合には、家族、主治医に報告して事故報告書を作成し、事故の原因、今後の予防対策を検討している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	関連施設合同で消防署の協力を得て、心肺蘇生の研修を実施し参加している。ホームとしては、毎月第一水曜日に心肺蘇生の実技を行いいざというときに備えている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災計画書を作成して年2回避難訓練を行っている。地域の協力体制があり、訓練にも協力していただいている。防災機器の管理を委託している黒木消防から消火器の使い方の指導があった。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒のリスクの高い方に対して、その旨を家族に説明しながら、本人が力を発揮できるようにみまもり、自由を妨げないようにして、家族にも歩行状態をみてもらい、意見をもらうようにしている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	早期発見に取り組み、普段と違った様子が観られたらバイタルチェックを行い、その様子を記録している。主治医にも報告して指示や助言を求め記録して全職員で共有し対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護記録に処方箋をとじておき、いつでもチェックできるようにしている。薬の処方に変化があった時は申し送り帳にも記録し、職員全員で共有している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜や黄粉牛乳を毎日取り入れ、水分の摂取量にも気をつけているがなかなか改善できず。排便がないときは(3日間)主治医からの指示薬を服用してもらっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きや洗口の声掛けを行い、できる方はご自分で行えるように準備をして、出来ない方は介助して口腔内の保清に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。水分摂取量の少ない方を把握し、毎食事の他、おやつ時に水分が十分ぬぐれるよう働きかけを行う。また、水分がぬぐれる機会を多く持っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ホールに感染症マニュアルを掲示し、職員は夜勤時などに学習している。利用者及び家族の同意をいただき、職員共にインフルエンザの予防接種をうけている。ノロウイルス対策と衛生面を考慮してペーパータオルを使用するなど予防を行っている。外出後のうがいや手洗いを励行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾は調理担当が調理を終えてから漂白し、清潔を心がけている。調理器具や流し台などは毎日、洗剤を使って洗い、清潔にしている。冷蔵庫には3日分の食材を保管し使いきるようにしている。食材の残りは鮮度や状態を確認し処分している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設は国道に面しており、門を一步出たら重大事故発生リスクが高く、いつも門は閉じられている。しかし、その面に花壇があり季節の花がいつも咲き、近隣の方もとても楽しみな空間と評価してくれている。植木がない分、花で生活観が出せるように花を生け、明るい雰囲気玄関になるようにしている。	○	私たちが暮らしている東郷町にほこりを感じ、東郷町をアピールしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝食準備の包丁の音が心地よく感じられると入居者が言ってお下さっている。地域に受け継がれている節目の食べ物(だんご、寿し、煮しめ、赤飯、うなぎなど)やたけのこ、梅などの食材でいままでに培ってきた生活を思い出していただいたり、季節感を感じてもらえるようにしている。節目のかざりの柳餅や七夕、雛壇、クリスマスツリー、こいのぼりも飾り、皆で楽しんでいる。ホールのガラス戸、居室の窓のカーテンは二重に		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファの位置がとても気に入られ、いつも気の合う入居者がゆっくりと過ごされている姿が観られている。テレビを見るのが好きな方はホールでテレビがよく見える場所で過ごしていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	入居時に使い慣れた物を活かしたいと本人、家族にお願い している。なじみのものに囲まれて生活しておられるかたもい らっしゃいますが、運びが用意な生活用品が本人、家族の希望 で持ち込まれ、それなりに自分の持ち物として生活の中で生 かされている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	ドア、窓の開閉はこまめに行っている。温度計、湿度計が要 所に設置しており、職員はいつも気にするようにしている。 ホールに消臭器を設置して不快な匂いに対応している。(緑 茶の香り) トイレは換気扇と消臭剤で悪臭が出ない工夫を している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	廊下には手すりがあり、入居者の移動を助けている。車椅子 の方が多いため、洗濯物干しは屋内で出来るようにハンガー とハンガーかけを準備している。また、外回りのフェンスは洗 濯干しとして利用している。浴槽が深いので身体状況に合わ せて入浴できるように底上げがある。 小さい方にとって 洗面台が少し高いようである。	○	ベットにこだわらず、床にマットを敷くなどして安全性と入居 者が自由に動くことができるようにしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	トイレには目印がある。身体機能面や認知の面を考慮してト イレに近い居室を提供するなどの工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	玄関のポーチが広く、外気浴が楽しめるスペースとなってい る。しかし、緩やかな下り坂となっているため、車椅子利用者 には危険であるため職員がいつもつきそっている		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

私たちは、全てに介助が必要な方でも不自由なく生活が出来るように支えていきます。私たちは、ご家族や地域の方たちと協力し合って入居者様を支えていきます。私たちは、その方を知り、その方の立場でものを考え、「おもいやり」の気持ちをもって人間関係を作り上げていきます。わたしたちは、研修に積極的に受講し、全職員のスキルアップに取り組んでいきます。